

五島の豊かな自然を守りたい

自然との共生をテーマにした「パークボランティアあぶんげ友の会」では、海岸清掃や自然体験学習などに取り組んできた。
「小さいことからコツコツと」を胸に活動の輪をひろげ、次世代に島の自然が受け継がれていくことを願う。

自然・歴史・文化資産に 恵まれた島で

九州の最西端に位置し、長崎港の西方海上100キロの五島列島の南西部の福江島なるしま、奈留島ひさかしま、久賀島など一々の有人島と五二の無人島で成り立つ五島市。福江島の西側の海岸には、東シナ海の荒波を受けて海蝕崖が連なり、とくに大瀬崎の断崖、嵯峨さか島の火山海蝕崖の景観は美しく、その大部分が西海国立公園に指定され、豊かな自然環境を有しています。

歴史的にも、古い時代から人が生活を営んでいたことが推測されており、

奈良・平安時代以降は海外貿易の拠点として栄え、近世に入り五島藩として幕藩体制に組み込まれました。江戸時代には、キリスト教徒が新天地を求め移住した地でもあります。

地域内には教会や寺院をはじめとした歴史的・文化的遺産が数多く残っており、豊かな自然環境とともに、五島市の豊富な観光資源であり、魅力の源泉となっています。

とくに、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、世界遺産登録を目指しており、五島市内の三つの教会も対象遺産になっていることから、今後世界の注目を浴びる遺産として期待され

ています。

この福江島の観光スポットであるあぶんげ鏡瀬溶岩海岸に隣接する「鏡瀬ビクターセンター」を活動の拠点として、「人と人との融和、人と自然の共生」を活動テーマに掲げ、「パークボランティアあぶんげ友の会」で仲間とともに海岸や園地道路の清掃奉仕活動、自然を体験する学習活動など毎月楽しみながら実践活動をしています。

発足は平成八年。自然が大好きで活動的な仲間がビクターセンターに集まるようになり、環境破壊から海岸の漂着物汚染、子どもたちの自然活動離れなどさまざまな議論をしていくなかで、

「それだったら自分たちでできることからやっつけていこう」と環境省の管理官や市の担当者の力添えのもと、「パークボランティアあぶんぜ友の会」が誕生しました。

設立当初から会長を引き受けていただいている木口清一氏の存在は大きいものがあります。以前から海岸や道路などに落ちていた空き缶やゴミ、漂着ゴミの多さを見て「このままでは、五島の自然が駄目になってしまう」と痛感していたそうで、「何とか五島の自然を守るすべはないか」との強い想いで仲間を呼び込み、今日の会の礎を築いていただきました。現在も、会長として常に会員の先頭に立ち、会の活動を引っ張っています。

自然と向き合う

「あぶんぜ友の会」

「パークボランティアあぶんぜ友の会」の活動は、毎月一回、海岸や公園内、道路のゴミ収集清掃作業と巡回パトロール活動をはじめ、公園内の植栽

活動、島内の生物や昆虫、環境状況などの調査研究、自然を体験する学習活動、具体的にはクリーンハイキング、植物昆虫標本づくり、体験キャンプ、山登りトレッキング、野草料理に野草健康茶、海や川の生物調査などです。ほか



「パークボランティアあぶんぜ友の会」によるゴミ・空き缶拾い活動。

にも市主催の自然体験講座へも指導補助として協力しています。

会員は、会社員や団体職員、公務員や農業者、主婦や高齢者、商店主などで、現在五〇人ほど（子ども会員を除く）。会員のなかには、日本野鳥の会

や長崎生物学会、学校の教諭など専門的知識に堪能な会員もいます。イベント開催時は、親子連れや仲間連れなど会員の友人の参加もあり、子どもから高齢者まで、各世代が集い、和気あいあいの雰囲気の中、つねに無理をせず、あせらず、他を思いやることをモットーとした活動が行われています。

とくに、子どもたちには、この五島の地から、未来の昆虫学者や植物学者が誕生してくれるかもしれないと密かな期待をしています。この子どもたちのなかに、

未来のファールブルや牧野富太郎が参加していると考えるとワクワク楽しくなつてきます。

活動にかかる経費は、一人一〇〇〇円の会費と、行政からの一部補助、それに自分で育てた植物苗の販売やバザーでの物販などを行い、まかなっています。しかし、不足がちであったため、セブンイレブン基金、大成建設環境基金など各種基金へ応募し助成を得て、活動の幅を広げることができました。

これまでの活動を振り返ってみると、まだまだ多くの課題をかかえています。一つは、いっこうに減らないゴミ空き缶の散乱と海岸の漂着ゴミ問題です。今後も粘り強く、気長に活動の輪をひろげ、拾うことにより、まずポイ捨てはしないということに住民や来島者へ伝えていきたいと思っています。

もう一つは、子どもたちが自然と向き合う活動が減少してきていることです。電子ゲームやテレビなどにのみこまれつつある今日の生活、一人でも多くの子どもたちが、自然のなかでさま



筆者の職場「鬼岳四季の里」。地場産品を活用した特産品開発も手がける。

ざまな体験の機会を通して学んでいけるように、努力を続けていきたいと思っています。

そして自分たちの活動が、他の仲間へ刺激となるような活動をさらに深め、連携を図りつつ地域づくりを進めています。

かなければならないと考えられています。

自然との共生をいつも胸に

現在まで、一〇年を経過する活動をしてきましたが、財政基盤の弱いボランティアアグループをカバースべき団体として、NPO法人「福江島おんだけ振興会」を、平成一六年四月に発足しました。この団体では、特産品開発と販売や施設の管理など事業の幅を広げ、活動基盤の強化を図り、豊かな自然環境の保全と地域振興発展を目的としています。平成一八年より、市の施設である「産品センター鬼岳四季の里」鬼岳天文台」の指定管理をうけ、事業の拡充を図っています。この施設では、地場産品を活用した特産品開発と展示販売、観光交流拠点としての情報発信、天文

ふくえじま 福江島 data

長崎港の西海上約100kmの東シナ海に位置する五島列島の主島。面積326km²、周囲322.1km、人口41,178人（平成19年2月現在）。対馬暖流の影響で気候は温暖、東シナ海の荒波を受けた海蝕崖など見事な自然景観を誇る。平成16年8月に福江島1市4町と奈留町の合併で「五島市」が誕生。鐘瀬ビジターセンターのある旧福江市は五島藩の城下町として栄え、現在でも政治・経済・行政の中心地である。



田中英人 (たなか ひでと)

昭和38年長崎県福江島生まれ。平成11年JAごとうを退社、12年福江市観光協会に入り、そば打ち・椿油づくり・かんころ餅づくり体験、夜は大型望遠鏡を使った星の観測ガイドを始める。16年NPO福江島おんだけ振興会発足、同年長崎県ふるさと水と土指導員。18年からはNPO福江島おんだけ振興会事務局長として鬼岳四季の里・鬼岳天文台に勤務。パークボランティアあぶんぜ友の会事務局長補佐。

台運営など行っています。現在、私を含め三名の専従職員で運営をしています。不慣れなところもありますが、毎日が全力投球の日々であり、自分自身、今までにない充実感を感じつつ運営しています。

NPOの理事長、友の会の会長をはじめ、会員がみな連携し、運営をサポートしてもらい、経営も軌道にのりつつありますが、今後ともこの施設が市

民の活動拠点となるべく充実を図っていきたいと思います。

最近の最大の環境問題である地球温暖化。私ごとですが、この長崎県推進委員に委嘱されたこともあり、環境問題へはライフワークとして取り組んでいきたいと強い決意でいます。

友の会会長の木口さんが、いつも口にしてのことです。「自然との共生が最大の目的。地球に生物が住めなくな

ったら大変」。みんなの願いは一つである。そして「清掃作業や自然との大切さがわかってくる。彼ら子どもたちが大人になるころにか、孫の代には、いままでの取り組みが実を結ぶはず」を口癖にしています。

最後に、私自身、初心を忘れず「小さいことからコツコツと」を心に刻み、息長く活動をつづけていきたいと思いません。